

平成 30 年度 第 1 回 岡山市環境政策審議会概要

- 1 日 時 平成 30 年 4 月 17 日（火曜日）午前 10 時 00 分から午前 11 時 20 分まで
- 2 場 所 岡山市役所 議会棟 3 階第 1 会議室
- 3 出席者
委 員：別掲委員名簿参照（2 名欠席）
岡山市：環境局長、環境局次長ほか関係職員
事務局：環境企画総務課
- 4 傍聴者数 1 名
- 5 主な意見

可燃ごみの広域処理施設建設候補地選定における二次選定の結果及び、可燃ごみの広域処理施設建設候補地選定における三次選定の項目について説明を行い、質疑応答が行われた。主な内容は以下のとおり。（●は委員、○は当局を示す。）

可燃ごみの広域処理施設建設候補地選定における二次選定の結果について

- 以前、環境政策審議会で決めた評価基準に基づいて点数を付け、合計点で上位 3 箇所を選んだということである。3 番目と 4 番目が相対的に点数に大きな乖離があり、逆転するのが難しいと考える。
- レーダーチャートを見ると、4 番目も検討材料にしても良いようにも見えるが、落とした方が良いという判断なのか。
- 4 箇所になっても構わないと考えているが、二次選定について審議していただいた内容により、合計得点が多いこと、ネガティブ項目が少ないことが今回の二次選定の基準となっている。今回選んでいく中で、合計得点が 1、2、3 番目は 10 点、9 点、8 点となっており、4 番目は 6 点ということで少し離れている。ネガティブ項目についても 3 番目より 1 つ多いため、3 箇所を二次選定の結果とした。

可燃ごみの広域処理施設建設候補地選定における三次選定の項目について

- この広域処理施設については、やはり震災についての対応策は求められると思う。その中で液状化というのは、割りと対策しやすく感じるが、土砂災害についてはどのように対策するのか。
- 土砂崩れとかの対策のためには擁壁を作ったり、回避のために広い部分で調整したり、そういったところも考えるような形をとりたい。液状化の場合は土壌改良、建つ地盤の改良というのをメインに考えている。
- 収集運搬費が入っているが、どのように収集するのかという計画も全てあって、施設の運用が始まってから、それが終わるまでの全ての運搬費を計算して固定費と比較するのか。

- 収集運搬費については、各市役所、町役場から、各市町のごみを候補地 A、B、C に持ち込んだ場合の経費と考えている。こういった内容で試算したいと考えている。
- ごみの減量目標や増量見込というのはどのくらい加味されているのか。
- それぞれの市、町でごみ処理の基本計画を立て、平成 37 年度までに今の量に比べると少なくなると算定している。また、各市町のごみ処理基本計画の中で減量化等について検討されており、それぞれの市、町で努力して減量して持ってくるという形を取り、規模を算定している。
- 二次選定までは色んな要素が入っていたが、最終的に三次選定においては経済性だけに集約してそれで評価するというのがこの考え方だと理解してよろしいか。環境面とか防災面というものがお金換算した際に、十分評価出来るのか。
- 環境面とか防災面についてのコストというのは、建設のコスト、維持管理のコスト、収集運搬のコストとはまた別で、これを回避するにはどのくらい掛かるかを試算する。回避、低減したいと考えている部分は生活環境の部分と、防災面の中の液状化や土砂災害の関係のところを考えており、これらについては工事等で回避、低減出来るものもあるのではないかと考えている。
- マイナス点だった部分を 0 点にするところまでは費用でなんとかやる。それをプラス点まで上げるという考え方ではなく、他の標準と比べて少し劣っている部分は経済的な対策をして 0 点まで上げておいて、その分コストは上げて、最終的に点数を付けて評価するというで良いか。
- そのような考え方である。
- 経済の方が重視してあるように見えるが、例えば点数は高くなるが点数以上に金額が膨らんだときに、金額的な条件はないのか。
- あくまで比較で得点を出している形なので、金額で制限をかけるということは特にはないが、やはりある程度の金額になると当然あるとは考えている。
- 今の質問とちょっと関係するが、採点方法のところ、最も安価な候補地の費用と当該候補地の費用との比をとっているが、具体的にこの比はどのくらいになるのか。これが他の全ての項目にこれかかってくるのであれば、結構効くんじゃないかと思う。
- 経済性の 4 つの項目については、この方法を考えている。配点は先ほどの 80 点満点ということにはなる。
- この方法を採用することは方針として決まっているのか。
- あくまでこの 3 箇所について比較してどういった形になるかを算出してみたいという形である。
- 相対評価なので絶対的な金額はわからない。制限をかけるというのは、ある程度常識の範囲で必要かもしれない。もちろん安ければ安いほど良いわけで、そんな膨大な金額にはならないと思うが。
- 経済評価は理解できたし、二次選定の考え方もわかったが、最終的に経済評価とそれ

から二次選定項目の評価のバランスが妥当な評価になるかどうかというのは、何か考えがあって決めたのか。

- 経済性と二次選定項目の再評価とのバランスというのはどのように判断されたのかと。
- 二次選定の再評価に関して、5点3点1点でなく10点5点2点でも良いわけですね
- 全てが5点満点だと24項目でちょうど120点となっている。これは全てを同じ5点の重みで見た場合のものとしている。配点を変えれば二次選定の再評価に関する重みが増えたり減ったりはする。

今は、二次選定の再評価120点对経済性の評価80点で、対策工事により回避出来れば-1点が0点になるということである。二次選定の再評価の配点で考えると1点だったのが3点になるということになり、2点上がる部分とそのための周辺対策等の工事費がどのくらい上がるのかを試算する、といった形で出していくということである。
- このあたりがまさに比率なので、予測がなかなかつかない。
- 周辺環境や防災において、ある程度無難な水準とするために評価点を上げる場合、どのくらいコストがかかるのかというのは見えない。コストの計算においては、収集運搬費のように永続的に掛かるもの、建設費のように一回きりのものとあるので、その辺は考え方を、筋を通しておいた方が良いと考える。
- ライフサイクルアセスメントの観点から、経済性の選定の中でどこまで盛り込まれているのか。
- 広域化することによる収集運搬のCO2の排出量等の検討は、基本計画の中で行っている。個別に建てるより収集運搬の距離は伸びるが、焼却施設が連続で焼却していくこと等により、環境面で広域処理の方が良い。発電やエネルギー回収も出来るといったことを検討した結果の基本計画になっている。今回の用地の選定に当たり、CO2の排出量もあるとは思いますが、収集運搬の距離が遠ければ、ごみ量が多ければという部分で検討しているのが現状である。
- 再評価のところで改善した方が良いのか、しない方が良いのか色々なパターンを検討し、その中で一番評点の高いパターンを選んだら良い。必ずしも全部改善するのではなく、ベストな回避を比較したら良いと思う。
- 一度試算してみるということは可能と考えている。
- 再評価にあたり、どの程度で0点とするのか。
- 二次選定の評価項目に準じる形を考えている。生活環境は変えられないので、対策としては防音壁、あるいは植栽等となると考えている。全ての項目において回避出来るわけではないので、回避できる可能性がある項目について検討する。
- 次回、三次選定の試算結果が資料として出てきて、それに対して委員皆さんが総意であれば少しそれを変えるという事は出来るのか。
- 内容が妥当かどうかということも見ていただいて、審議していただく部分というのは必要かもしれない。

- 次回の審議会で試算結果を見て、皆さんが納得できるところに落ち着ければ良いと考える。

審議は以上。